



the most beautiful
villages
in japan

定価600円

日本で最も美しい村連合

季刊 日本で最も美しい村 2024 SUMMER

Vol.48 ワロン「世界で最も美しい村」

with English Translation

The International Assembly of the Federation of the Most beautiful Villages of the World in Wallonia, Belgium

Report & Column

「世界で最も美しい村」国際連合会総会 2024

From 多良間 登 彰子 / 東白川村 日常茶飯 野村 啓

線路の上の緑の村 シモキタ園藝部 石田紀佳 / Dog-eared Trails ナカニシモモ

美しい村担当会議 社会課題解決の取組事業・施策紹介
「日本で最も美しい村」村食材活用レシピコンテスト〈結果発表〉



●Pioneers of the "Beautiful Village" Movement

●The leading article of the International General Assembly

Will the "Most Beautiful Villages in Japan" be even more beautiful place 10 years from now? The villages in Wallonia, Belgium, where the 2024 International General Assembly of the federation of the "Most Beautiful Villages in the World" was held, clearly pointed to the future possibilities of creating beautiful villages as pioneers of the "Beautiful Villages" movement.

In the Ineu district, where boathouses are lined up, there are many people who wish to move there, but there are no houses to accommodate them. Increasing the value of the village's landscape is a clear trump card against the problem of population decline.

In 2014, the Japan Policy Council published a list of villages at risk of disappearing. While many of the villages that are members of the federation of the "Most Beautiful Villages in Japan" were on the list, the municipality that was removed from the list published this year in 2024 was Ine Town.

Next year, in 2025, the federation of the "Most Beautiful Villages in Japan" will celebrate its 20th anniversary. And this year, the "Most Beautiful Villages in Wallonia" Association, which is active in the southern part of Belgium, celebrated its 30th anniversary, earlier than us.

If you visit in 19 years, the village will undoubtedly be even more beautiful. In this issue, we would like to focus on the development of beautiful villages in Wallonia, which gives us that confidence.

The report of the International General Assembly At this year's International General Assembly of the federation, Switzerland joined as a full member, and Bosnia and Herzegovina joined as an associate member. We would like to introduce the "Most Beautiful Villages" movement, which connects the world once again.

来年2025年に「日本で最も美しい村」連合は設立20周年を迎える。そして今年私たちより一足早く設立30周年を迎えたのが、ベルギー南部の地域で活動をする「ワロンの最も美しい村」協会である。

今回の総会プログラムで視察に選ばれた場所は、この10年の間に美しい村としての価値を高める努力を続けてきた村ばかり。10年後に訪れたら間違いなく、もっと美しい村になっているだろう。

それから今回の世界連合会総会ではスイスが正会員加盟国に、ボスニア・ヘルツェゴビナが準会員加盟国として加わった。本紙の読者は既に知っているという方も多いかも知れないが、改めて世界と繋がる「最も美しい村」運動について今号では紹介したい。

りを進めただけ。小さくても輝くオンリーワンの村を指して、地域の景観を磨いたんや！

美しい村運動の先駆者たち

Wallonia, Belgium

今から10年後、「日本で最も美しい村」はより美しい場所になっているだろうか？

2024年「世界で最も美しい村」国際連合会総会が開催されたベルギー・ワロン地域の村々は、「美しい村」運動の先駆者として、美しい村づくりが持つ未来への可能性を明確に指し示してくれた。

文：高津竜之介（p.09） 写真：エクサビーコ（p.09）

昨年は「日本で最も美しい村」連合の伊根町が「世界の最も美しい村」国際連合会の代表団を受け入れた。舟屋が建ち並ぶ伊根浦地区には、住みたいという移住希望者はたくさんいるにも関わらず、住むための家がないという、苦しくも喜ばしい実情がある。この状況はヨーロッパの美しい村が議論している問題意識と類似している。村の景観の価値を高めることは、人口減少という問題に対して、明確な切り札となっているのだ。

2014年に日本創成会議が、「消滅可能性都市」というリストを公表したことは地方でまちづくりに取り組む人々にとって、記憶に新しいだろう。「日本で最も美しい村」連合に加盟する村の多くがそのリストに名前が挙がった中で、伊根町は今年2024年に公表されたリストから名前が外された。

「日本の最も美しい村」連合に加盟する村々の中で景観を美しくすることに効果的な取り組みを行っている場所はどれだけのところだろうか。もしかしら、どこから手をつけてよいのか、何を優先するべきなのか、合意が難しい議論にもかきい思いを抱えている村もあるかもしれない。ブリュッセルから会場までの道中で、伊根町長であり、「日本で最も美しい村」連合の吉本秀樹会長は次のように語った。「伊根町がしたこと、美しい村づく



(左)「ワロンの最も美しい村」協会のリーダーたちとともに

「最も美しい村」とは

「最も美しい村」という運動の始まりは、1982年のフランスに遡る。フランスの農山漁村における過疎化が深刻な社会問題として認識されていた時代で、多くの村には閉塞感が漂っていた。

中世から続く街並みが近代化・産業化の波への乗り遅れを意味していた中で、村の短所を長所へと変えることは出来ないかと模索し続けた一人の人物がいる。フランスのコロンジュ・ルージュという小さな村の村長だったシャルル・セイラック氏である。

彼のアイデアは、村の美しい景観の価値を高めることを通じて、村での豊かな生き方・暮らし方を実現しようというものだった。彼の考えに賛同した村長が集まり「フランスの最も美しい村」協会が設立され、瞬く間にフランス中から高い評価を得ることとなる。

そんな「最も美しい村」というコンセプトに、強く共感した人物がいる。「ワロンの最も美しい村」協会を1994年に設立した、アラン・コラン会長である。本家フランスと比べて歴史的文化財というレベルでは控えめな村が多いなかで、「最も美しい村」という哲学を深く理解し、美しい村づくりのサポートが出来る組織づくりを目指した。

その後、ケベック(カナダ)、イタリア、日本、スペイン、ザクセン(ドイツ)、ロシア、スイス、レバノン、中国と「最も美しい村」を旗印とする組織が世界中に生まれた。そんな世界に広がる「最も美しい村」協会が出会い、助け合い、そして協力し合うために生まれたのが、「世界の最も美しい村」国際連合会である。

今回の総会を経て正会員加盟国となった「スイスの最も美しい村」協会、そして新たに準会員加盟国となった「ボスニア・ヘルツェゴビナの最も美しい村」協会について、簡単な紹介をしたい。

「スイスの最も美しい村」協会は2015年

に設立された。スイスはフランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語という4つの言語圏が存在する多言語国家であり、言語を含めた地域性が多様性のある美しい村を生み出している。

また2019年からは隣国リヒテンシュタインにある村も、美しい村として認定を行っている。「歴史的にはスイスと深い関係を持っている村です」と語るのは、スイス協会のサン・シュルピス理事。それでも歴史・文化・言語そして国家の壁を超えて組織づくりを行う、その寛容性がスイス協会の大きな強みとなっている。

ワロンのコラン会長、そしてイタリアのプリミ会長は、正会員加盟国の承認に際してこのように語っている。「何カ国語も話せる国が参加するのは嬉しいこと。ベルギーも多言語の国であり、言語の違いによって生じる課題について話し合うことができる」「スイスはその歴史のおかげで、この国際連合会に良い貢献をもたらすだろう。4つの異なる言語を用いる地域が、何世紀にも渡って一緒に暮らしているのはポジティブなことである」

「ボスニア・ヘルツェゴビナの最も美しい村」の始まりは、2009年にNPO法人「アルタール・ラル(Aleral)」が設立されたことに遡る。「変わる」と「田舎」を組み合わせて名付けられた組織が目指したのは、農山漁村の観光を促進し、それに伴う経済活動を生み出す手助けをすることだった。

ボスニア・ヘルツェゴビナは旧ユーゴスラビアから独立を宣言した1992年から3年以上にもわたる内戦を経験し、地域が大切に受け継いできた伝統の一部が失われてしまった。加えてヨーロッパで最も近代化が遅れた国の農山漁村は、観光産業がほとんど手つかずだった。そこで地域のアイデンティティを守りながら、経済的な発展の道を探る事が社会的課題だったのである。



◆<ti1-...7・rJvY :lt::+0)/H,Lv#J lim8T-Q:t:7-L.\$P/a
J.i<ti)J7-47-0Jt e,l,t.J.GbHf •//:i,e::W::e&l::
0/7.0)if1)&

(左)「日本で最も美しい村」連合の加盟町村地域の紹介をおこなう浅田陽子事務局長 (下) 総会の様子



左から日本、レバノン、スイス、スペイン、ワロン、フランス、イタリアの代表者



世界連合会の会長としてメッセージを読み上げる吉本会長

このように当初は「最も美しい村」と接点のない場所からスタートしたが、直近の5年ほどでボスニア・ヘルツェゴビナの観光産業は目覚ましい発展を遂げる。そんな状況の中で出会ったのが、「レバノンの最も美しい村」協会のクービエ会長である。2021年より「最も美しい村」という観光認証制度を導入するための調査・協力が行われ、レバノン協会の経験が惜しみなく共有された。クービエ会長は次のように語る。

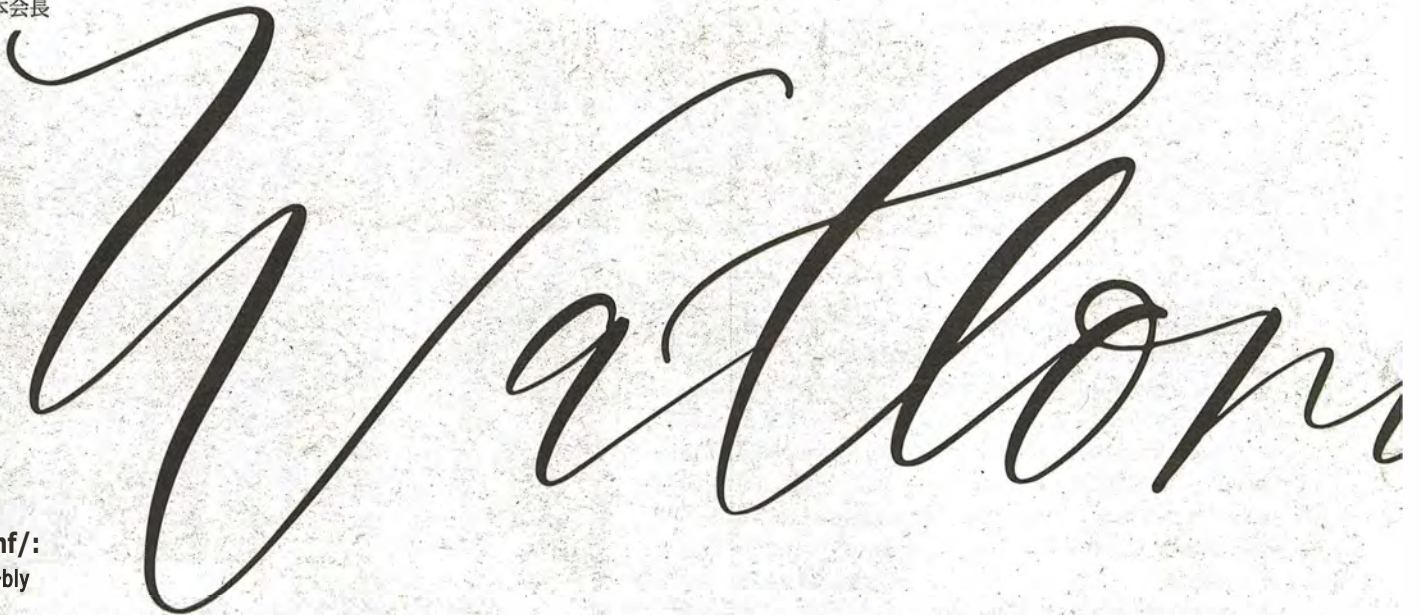
「ボスニア・ヘルツェゴビナを視察し、素晴らしい自然と出会いました。まだ人の手が加わっていない、自然の力強さを感じる場所です。建築物も古く、保存すべきものが数多く残されていました。『最も美しい村』という認証を通じて、かけがえない文化財の保全そして活用に寄与するのではないかと考えています」

またフランス協会にも協力を仰ぎ、加盟する村を選ぶ際の根幹をなす資格審査基準の策定などについて多くのアドバイスを受けた。

このような国の境目を超えた、地域の交流が世界連合会の大きな強みだ。「ボスニア・ヘルツェゴビナの最も美しい村」を運営する、デビスム専務理事はこのように語る。

「ボスニア・ヘルツェゴビナは国としては小さくて、ヨーロッパのエルサレムと言われていたような場所。美しい村の認証がつくと、地方の誇りが高くなります。これまでも多くの方々の協力のおかげで、これまでの組織にすることができました。世界連合会への加盟を通じて、皆様と交流できるのを楽しみにしています」

世界との交流は私たち「日本で最も美しい村」連合にとっても、大きな強みとなっている。今回の世界大会で行った4つの「ワロンの最も美しい村」の視察は、美しい村づくりの様々な気づきに溢れていた。そこで次ページからは、月日を重ねるごとに美しさに磨きがかかるワロンの美しい村づくりを一緒に見てみよう。



h ii - ♦♦th♦Jnqstbeail, ♦♦ùl. vill♦Jje_nf/:
Th; réþory; oflhè Inte_natiollal. General À♦i; ♦♦bly

The "Most Beautiful Villages" movement began in France in 1982. It was a time when development in farming, tourism and fishing villages was recognized as a serious social problem, and many villages had a sense of isolation.

Charles Sèyrac, the mayor of the small village of Collonges-la-Rouge, was a man who continued to search for ways to turn the village's shortcomings into advantages.

Vincent Mayocq, who agreed with his idea of realizing a rich way of life and lifestyle in the village by enhancing the value of the beautiful scenery of the village, gathered together and founded the "Most Beautiful Villages in France" Association, which quickly gained high praise throughout France.

Alain Comri, president of the "Most Beautiful Villages in Wallonia" Association, founded the association in 1994, with a person who strongly sympathized with the simple and clear concept of the "Most Beautiful Villages". He aimed to create an organization that deeply understands the philosophy of the "Most Beautiful Villages" and can support the creation of beautiful villages.

Since then, organizations under the banner of "Most Beautiful Villages" have been established around the world including Quebec (Canada), Italy, Japan; Spain; Saxony (Germany), Austria, Switzerland, Lebanon and Cyprus. The International General Assembly of the "Most Beautiful Villages in the World" was established to allow the "Most Beautiful Villages" associations to meet, help,

and cooperate with each other.

"We would like to give a brief introduction to the Most Beautiful Villages in Switzerland, which became a full member after this general meeting, and the Most Beautiful Villages in Bosnia and Herzegovina, which has become an associate member."

The "Most Beautiful Villages in Switzerland" Association was founded in 2015. It is a multilingual country with four languages (German, French, Italian, Romansh), which has produced beautiful villages with diversity in regional characteristics, including language.

In addition, a village in neighboring Liechtenstein has also been certified as a beautiful village since 2019. "Historically, it is a village that has a deep connection with Switzerland," says Saint-Sulpice, a director of the Swiss Association. Nevertheless, the Swiss Association's great strength lies in its role in building an organization that transcends historical, cultural, linguistic and national barriers.

The origins of the "Most Beautiful Villages in Bosnia and Herzegovina" date back to the founding of the local profit organization "Alter Jural" in 2000. The organization, whose name combines "change" and "countryside," aimed to promote tourism in rural areas and help generate economic activities associated with it.

Bosnia and Herzegovina experienced a civil war that lasted for more than three years from 1992, and some of the traditions that the region had cherished were lost. The farming, mountain and fishing images of the country, which made its identity, were faded,

with the social challenge of finding a way to develop economically while preserving their regional identity.

It started in aid with no connection to the "Most Beautiful Villages". At first, the tourism industry in Bosnia and Herzegovina has made remarkable progress.

In the last five years, in this situation, we met Chairmen of the "Most Beautiful Villages in Lebanon" Association. Research and cooperation were conducted to introduce the "Most Beautiful Villages" tourism certification system from 2021, and the Lebanese Association's experience was generously shared.

They also sought the cooperation of the French Association and received a lot of advice. This kind of regional exchange that transcends national borders is a major strength of the International General Assembly. Executive Director Devism of the "Most Beautiful Villages in Bosnia and Herzegovina" says: "Bosnia and Herzegovina is a small country. It is known as the Jerusalem of Europe. Recognition of a beautiful village brings pride to the region. We look forward to interacting with you all through our membership in the International General Assembly."

Exchanges with the world are also a great strength for us, the "Most Beautiful Villages in Japan" Association. The visits to the four "Most Beautiful Villages in Wallonia" fit this world conference were filled with various discussions about creating beautiful villages. We will look at the creation of beautiful villages in Wallonia, whose beauty is refined with each passing day.



ア リ・フの時間。背景の建物に
t: 7 1 1 .r{f3'3'ail:ij'A っており 2
F li: 3'7 o :;:fa:Jfomiがある



◆fijJ:W:fflè O'w.f1J/J
u,t-f; u'il:fir-lf-1 ;;



ワロン協会の歓迎のスピーチ

Crupet

Crupet

This village, symbolized by its 13th century castle, is where the office of the "Most Beautiful Villages in Wallonia" Association is located. In addition to the International General Assembly, a ceremony was held to commemorate the 30th anniversary of the founding of the Walloon association.

"Our activities are based on the efforts made to realize a richer life in the changing times, and on the regional identity that has been passed down through generations. Thirty years ago, when the association of the 'Most Beautiful Villages in Wallonia' was founded; the diverse affluence of the historical and cultural assets of the region was being rediscovered, but it was also a time when there was a sense of concern that activities to enhance their value were insufficient. The organization, which started with 11 villages, continues to move forward together with 32 villages today. In recognition of our many years of activity, in 2009 we were recognized by the Walloon regional government as the operator of the 'Urban Platining' House project."

There are two catchphrases that sum up the values that the Walloon Association has always held dear.

The first is "Authenticity within close reach." Historical architecture, unified streetscapes, and natural landscapes shaped by the activities of daily life. The beautiful villages in Wallonia today are the result of striving for beauty without compromise. The same can be said about village culture, art, food, and so on.

The second is "the special occasion that exists nearby." Wallonia is relatively small, so it is easy to visit no matter where you live in Belgium. However, the encounters that await you when you visit a beautiful village are special. The sense of solidarity among the residents enhances the value of a beautiful village, and being a beautiful village creates a sense of belonging to the village.



「ワロンの最も美しい村」協会は30年前に設立されました。地域が持つ歴史的文化財の多様な豊かさが再認識されると共に、それらの価値を高める活動が十分ではないという問題意識を抱えていた時代でもありました。最初は11の村から始まったこの組織も、今日では32の村と一緒に歩みが続けています」

「設立の翌年に定められた活動の軸は、建築の専門家によるサポートと、村の活気を生み出すことでした。田舎における建築のルール作りに関する学習会、そして村の散策路、芸術家や工芸品、食を通じた様々なイベントを開催する手助けを行ってきました」

「ワロンの最も美しい村」協会は30年前に設立されました。地域が持つ歴史的文化財の多様な豊かさが再認識されると共に、それらの価値を高める活動が十分ではないという問題意識を抱えていた時代でもありました。最初は11の村から始まったこの組織も、今日では32の村と一緒に歩みが続けています」

「設立の翌年に定められた活動の軸は、建築の専門家によるサポートと、村の活気を生み出すことでした。田舎における建築のルール作りに関する学習会、そして村の散策路、芸術家や工芸品、食を通じた様々なイベントを開催する手助けを行ってきました」

「ワロンの最も美しい村」協会は30年前に設立されました。地域が持つ歴史的文化財の多様な豊かさが再認識されると共に、それらの価値を高める活動が十分ではないという問題意識を抱えていた時代でもありました。最初は11の村から始まったこの組織も、今日では32の村と一緒に歩みが続けています」

クリュペ

「ワロンの最も美しい村」協会は30年前に設立されました。地域が持つ歴史的文化財の多様な豊かさが再認識されると共に、それらの価値を高める活動が十分ではないという問題意識を抱えていた時代でもありました。最初は11の村から始まったこの組織も、今日では32の村と一緒に歩みが続けています」

「ワロンの最も美しい村」協会は30年前に設立されました。地域が持つ歴史的文化財の多様な豊かさが再認識されると共に、それらの価値を高める活動が十分ではないという問題意識を抱えていた時代でもありました。最初は11の村から始まったこの組織も、今日では32の村と一緒に歩みが続けています」



(J:) '70 :;:O)ffil:fi:ffl/J;:J;:1J;-tiJ:~c1;? ti.
(1t) 7 1) :;:r{~

Falaën

After crossing the gently winding Molignée Valley, the town center of this village, lined with limestone houses, appears. The townscape is unified in soft shades of gray, creating a simple yet harmonious atmosphere.

The reason we decided to revisit this village, which we had already visited during a past International General Assembly, was because it has undergone repeated, steady improvements to its landscape, which have increased its appeal as a beautiful village over the past 10 years.

One of these projects was the renovation of the square in front of the Church of St Leger in the center of the village. In the work carried out in 2019, a small fountain and benches for people to rest were added.

With the number of devout Christians decreasing in Europe, the meaning of churches is being questioned. By redefining the church, which is inseparable from the history of the village, and its square, the aim was to return it to the center of residents' lives once again.

Falaën Castle is another important symbol of the village. It is a shape called a chateau ferme, a combination of the lord's residence and a farm for agriculture, and livestock raising, and was fortified to defend against invasions and plunderers, and provided a place for residents to take refuge in times of emergency.

Falaën Castle, known as one of the representative architectures of Chateau Ferme, is impressive for its imposing appearance watched over by three towers. This time, its gates were specially opened for the International General Assembly.

We were welcomed by the Li Crochon Association, which was founded in 1982 to promote local food culture and traditions. The beer bearing the same name were served, and the presidents of each country's association made the oath, "As someone who loves to drink, eat, and dance, I declare that I will be a supporter of this delicious beer."



ブロンズのメダルをもらいに、またワロンに来てください

「この教会では定期的に住民同士の親睦会（アペリティフ）を開催するようになったのです」
ヨーロッパでは敬虔なキリスト教徒が減り、教会の意義が問われてきている。この村の歴史と切り離せない教会とその広場を再定

義することで、改めて住民の暮らしの中心に教会を戻そうという試みのようだ。
フアラエン城は、この村を象徴するもう一つの大事な場所。領主の住居と農業や牧畜のための農場を一体化したシャトー・フェルムと呼ばれる形態は、17世紀のベルギー・ワロン地方で広く普及した城の考え方である。侵攻や略奪者から防衛するために要塞化され、有事の際には住民が逃げ込めるようになっていた。

そんなシャトー・フェルムの代表的な建築として知られるフアラエン城は、3つの塔が見守る威風凛々とした姿が印象的。2016年まで実際に農場としての営みがあつたというのも、驚きである。その後、売りに出されたフアラエン城は新しい持ち主の下で綺麗にリノベーションされ、定期的に住民のために一般公開をしており、今回は世界連合会総会のため特別にその門を開いてくれた。

迎えてくれたのは、地元の食文化や伝統をプロモーションするため1982年に設立されたリ・クロション組合。同名を冠したビールが振舞われ、「飲んで、食べて、踊るのが好きな私が、この美味しいビールの支持者と

なることを宣言します」という誓いを各国協会の会長がたてた。

ワロン協会のコラン会長とイタリア協会のプリミ会長が、この宣言をするのは二度目。初めての参加者には仲間の証として陶器のメダルが贈呈されたのだが、二人の胸にはブロンズのメダルが掲げられていた。

「ぜひブロンズのメダルをもらいに、またワロンにいらしてください」
コラン会長は冗談交じりに皆にそのように呼びかけていたが、その言葉の端には確信的な自信がみえてとれた。

美しい村には受け継がれてきた歴史と文化、そして美しい街並みがある。それらは時を止めて保存していくのではなく、不断の努力によって磨かれるものだ。同一の村を視察地として選んだワロン協会のプログララムは、30年に渡って大切にしてきた信念を示していた。10年後、20年後、ワロンの村々はもつと光り輝いていることだろう。



各国協会の会長が誓い、そしてビールをいただく



Clermont-sur-Berwinne



現代音楽家による教会でのコンサート



観光案内所が併設する公民館。建物の下のアーケードをロードバイクが駆け抜ける



クレルモン・ユール・ベルウィンヌ

続いて訪れたのは、クレルモン・シュル・ベルウィンヌ。12世紀に建てられたサン・ジャック・ル・マジュール教会が、中央広場を見下ろす高台に佇んでいる。こうした歴史的文化財の存在に加えて、この村にはワロン協会の考える「美しい村」というイメージを凝縮したかのような魅力が溢れていた。

周囲を取り囲む牧草地に、レンガ造りの民家が建ち並ぶ中心市街地。美しい場所に来たのだと、直感的に心に訴えかけてくる村である。余計な解説など本来必要はないのかも知れないが、世界総会後に行われた「美しい村の地域性」をテーマに行われたワロン協会のプレゼンテーションを基に、どのように「美しい村」を理解しようとしているのかを少し紹介したい。

Clermont-sur-Berwinne

Next, we visited the village of Clermont-sur-Berwinne. The Church of Saint-Jacques-le Majeur, built in the 12th century, stands on a hill overlooking the central square.

The central town is lined with brick houses surrounded by pastures. Based on the presentation by the Walloon Association on the theme of: "The Regional Characteristics of Beautiful Villages" held after the International General Assembly, I would like to briefly introduce how they are trying to understand "beautiful villages."

The first is a classification of the landscape based on agricultural geology. The village is located in the Elzas region in southeastern Belgium, where dairy farming is popular. During the reign of Holy Roman Emperor Charles V, grain exports were banned, and dairy farming culture spread rapidly.

They are also taking an approach to understand the regional landscape from a geological perspective and systematically analyzing the regional characteristics of the landscape. The soil in this area is clayey and has the characteristic of high-water retention. It is inseparably linked to the characteristics of this village. Many people may think of cobbled streets when they think of Belgium, but here is a unique one, and each village has its own unique character.

They are trying to systematically understand the characteristics of the village. One of the great attractions of the village is that buildings from various eras, from the Louis XV style to the Louis XVI style, remain facing the square, and the careful research and deep understanding of the characteristics of each building forms the basis of the "Most Beautiful Villages in Wallonia" movement.

まずは農業地質学に基づく景観の分類である。この村は酪農が盛んな、ベルギー南東部エルヴ地方に位置している。元々穀物の栽培が盛んな地域だったのだが、神聖ローマ皇帝カール5世の時代に穀物の輸出を禁じられ、また牧草地への税が免除されていたことから、酪農文化が急速に広がった。

こうした歴史的背景の中で、防風林や生垣によって区切られた農地を意味する「ボカージュ」と呼ばれる景観を育んできた。生活の営みが生み出す自然景観を、資格審査基準の中に明確に組み入れながら評価しているのはワロン協会の特徴であり、同時に私たち「日本でも美しい村」連合との類似点である。

また地質学的な観点から地域の景観を把握し、景観の地域性を体系化しようというアプローチもとられている。例えばこの地域の土壌は粘土質であり、酪農向きという特徴がある。農業より酪農の方が適していたという事実が、この村の農業景観を支えてきたのである。

もちろん粘土はレンガの製造に必要不可欠なものであり、この村の建築物的特徴と切り離せない関係にある。ベルギーといえばレンガ

最後に訪れたのは、中世にベルギー・オランダ・ドイツの一部を領有していたリンブルフ公国初期の村として知られるランブルである。川の谷間に沿って村が佇むことの多いワロン地域では珍しく、崖の上に築かれた軍事的な要塞都市として発展した。

その歴史を12世紀に遡るサン・ジョルジュ教会は、高低差20mにもおよぶ崖の斜面の上に佇んでいることで有名。1020年に築かれたかつてのランブル城は、フランス領だった17世紀に取り壊されてしまった。それでも細い路地や稜堡など、往時の面影を今に伝える様々な跡が大切に守られ続けている。

しかし、「美しい村」とは変わらない村ではない。変わり続ける村である。その象徴がこの村の中央に位置する、サン・ジョルジュ広場である。

「電柱・電線の問題など、20年ほど前から住民がこの村の景観に危機感を抱き始めました。そして少しずつ修景を行ってきた結果、今日があるのです。例えば、広場の石畳は3年前に新たに敷いたものなのです。地元団体やワロン地域政府、そして欧州連合など様々な組織からの補助金によって実現したのですが、それでも足りなかった費用は、地域住民の寄付によって賄いました」と地元ガ

ランブル



コンテンポラリーダンスでの歓迎

イドが教えてくれた。

村の位置する崖の麓を流れるヴェストル川で採れた石材を使用するという所が特徴だそうで、丸みを帯びた柔らかな景観を生み出している。そして目を凝らすと、所々に丸石とは異なる趣の特別なタイルが存在していることに気づく。寄付者の名前を刻んだタイルが埋め込まれており、住民の意志と地域の景観が結び付いた、日本でも参考にしたい事例だと感じた。

またクレルモン・シュル・ベルウインヌの教会ではクラシックのコンサートが、村の広場ではコンテンポラリーダンスのショーが披露された。テーマは世界とつながる美しい村。日本を含む正会員国にゆかりのある楽曲やダンスが組み込まれたプログラムで、「世界の最も美しい村」の代表団は歓迎された。

このようなライブ・パフォーマンスの開催を、ワロン協会が重要視していることは特筆すべきだろう。年間20程の文化イベントの開催に協力しており、文化活動を「美しい村」が今後も発展していくためのひとつのテコとしている。ワロン協会のシュラース副会長が、このように語っていたのが印象的だった。

「本日、世界から皆様を迎え入れることが出来たことを大変光栄に思っております。地域の文化を守ることを大切にしている場所が『美しい村』です。同時に『美しい村』とは、様々な文化を受け入れる扉でもあるからです」

美しい景観そして美しい文化は、多くの人々を惹きつける。今回のベルギー訪問を通じて、「美しい村」運動は村の発展を支える有力な選択肢の一つであり、そこに住む人々の暮らしを豊かにする力ぎであることをより確信することができた。

Limbourg

Limbourg

The last place we visited was Limbourg, known as the cradle of the Duchy of Limbourg, which occupied parts of Belgium, the Netherlands, and Germany in the Middle Ages. It developed as a military fortified town built on a cliff, which is rare in the Walloon region, where villages are often found along river valleys.

The Church, of Saint-Georges, which dates back to the 12th century, is famous for standing on the slope of a cliff with a height difference of 20 meters. The Château de Limbourg, built in 1020, was demolished in the 17th century when France was in control. However, various vestiges of the past, such as narrow alleys and bastions, continue to be carefully preserved.

A "beautiful village" is one that is constantly changing. The symbol of this is Place Saint-Georges, located in the center of the village.

"About 20 years ago, the residents began to feel a sense of crisis about the village's landscape, with problems such as utility poles and power lines, and have been gradually improving the landscape. The cobblestones in the square were newly laid three years ago, made possible by subsidies from various organizations, including local groups, the Walloon government, and the European Union, and the remaining costs were covered by donations from local residents," explained a local guide.

There was also a classical concert at the church in Clermont-sur-Berwinne and a contemporary dance show in the village square. The theme was "A beautiful village connected to the world." The Walloon Association considers hosting such live performances to be an important part of its daily activities. The following words by vice president, Schlags of the Walloon Association were impressive.

"It is a great honor to be able to welcome you from around the world today. A 'beautiful village' is a place that places great importance on preserving its local culture. At the same time, a 'beautiful village' is also a door that welcomes various cultures."



*10) i:(t,C,tB. /t!dO)i:i',if,J: 3 fFM'lè:ffitdc::9,&t,, Jmt4!Jl;üffl(oiJdL,t,, tr. 1t,O)ttiJd5eoj,dlwle: Z-t'it,lib L,tt-'0





(写真上) ナミュール、マース川沿いの風景 (写真下) 城跡から見るナミュール市街地 (写真右) ナミュール駅前の街並み



私自身3回目となるワロンでの「最も美しい村」連合の世界総会に参加した。ワロンはベルギーの首都ブリュッセルから南に鉄道で一時間強の距離にある地域でマース川沿いの工業が盛んだった地域(ヨーロッパで2番目に産業革命が起こった)と、そのさらに南側にある地形的には高台にある緩やかな傾斜地を含む農業地帯に小規模な集落が存在する地域。美しい田園風景には強く共感させられる。集落内の建物は石造りで17世紀に建てられたものが多く、その保存と修復はワロンの美しい村運動の大きな柱となっている。

ワロンは気候的にやや気温が低く、降水量そのものは多くはないが、晴天の日が少なく傾向にあり、農業においてもその影響を受けている。放牧形式の畜産が多く、牛乳のほかには乳製品や肉類、ハム・ソーセージなどを製造している。フランスなどにおいて、大きな経済活動となっているワイン生産は、どのような生育が気候に適さず、あまり行われていない。一方チーズなどの乳製品、肉類、ハムなどは質が高く、人気商品となっている。

最近では美しい村運動の成果と思われる観光施設、ホテルなどが増加し、家族連れで賑わっている。今のところ、オーバーツーリズムの心配はなく、今後も少しずつ訪れる人の数は増えて行くのだろう。

私たちはワロン協会の方々的心づくしの歓待を受け、3日間大いに楽しむことができた。心から感謝申し上げます。

大会終了後はナミュールの街を散策し、古い街並みと大学、城跡などを訪れた。城址の一角に昔の邸宅を活かしたホテルとそこに併設されたホテル学校があり、その発想に共感を覚えた。

日頃から抱いている考え—自分たちの力で一歩一歩持続可能な地域を築いて行く、そのためには多くの高い人材、インテリジェンスが必要で、それを集める努力を一生懸命にやる、そしてそこから新たな可能性の光が差してくるのだ—というこの確信を得た。これは世界共通のことではないかと思う。多くの企業会員の皆さんが世界大会に参加されるときつと大きな気づきがあるはず。

来年はフランス、ストラスブール地域での開催です。ぜひ一緒に行きましょう。

株式会社地域科学研究所 木下光一

世界総会に参加して



(上) 村で一番「新しい」建物 (下) 石畳と整備時に寄付した人のサイン。石畳の隙間にたくさんある。200名以上が寄付したと聞いた

初めて「最も美しい村」連合の世界総会に参加した。滞在中のどの場面を思い出しても美しい景色、素晴らしい雰囲気と空気があった。他の「最も美しい村」も見てみたい。

恥ずかしながら私は海外経験が乏しい。数少ない経験は、空港に着いたそばから、ガイドブックに載った観光名所をスタンプラリーのように巡り、その国その地域特有の料理を食べて帰国する。といったものだ。私の中で残ったものは「有名な建物を見た。料理も美味しかった」といった消費するための旅行だったように感じる。それに対して、今回の滞在はどれを切り取っても印象深く残った。

今回訪れたクリュベ、ファラエン、クレルモン・シュル・ペルウィンヌ、ランブールの何処にも歴史と文化が満ちており、魅力に溢れていた。その中でも特に私の印象に残ったランブールについて述べたい。

ランブールの村は大きな岩の上にあり、いにしえから要塞だったそう。村の入り口には見張り台などがあり、入口が限られた場所にあることなどからその様子が伺える。現在も200人ほどが生活している。

この日、ランブールに着いた我々を出迎えてくれたのは、村の広場に特別に設けられたステージでの少女たちのコンテンポラリーダンスであった。

躍動感に満ちたダンスの後、ガイドの方々が村の中心部を1時間ほど案内された。丘の

上にあるため井戸はとても深く掘られていること(ポンプのハンドルが2メートル以上ある)、税を安くするために埋められた窓の痕跡が見られること(昔は窓の数が税評価に使われていたため)、寄付を募って綺麗な姿を維持している石畳などを説明された。

今思い返すと、そのお話しが全てが自然にそこにあることに驚く。村全体から歴史を感じる一体感、秩序があった。決して「ここが見どころですよ。観光していただくさい」とアピールしているのではなく、奥ゆかし、しかししっかりと街の歴史を語ってくれているのだと感じた。おそらく全体を保全するためには、多くのコストや工夫があったのだと思う。「私たちの街」という形が、全体が自然とある様は美しいと感じた。

私は「最も美しい村」に、またいきたいと思う。「日本の最も美しい村」連合のHPには「美しい村を、美しいままに。」という言葉がある。今回の世界総会で訪れた場所を感じた「美しさ」を同じように一度体験したら、美しさに共感する人が増えていくのだろうかと思った。この村が持つ「美しさ」はもちろんさまざま形があると思う。だが、「文化が貴重だから残す」だけではなく、「歴史はなくなると寂しいから残す」でもない。「日本の最も美しい村連合の村々が好きだから、美しいと思うから残したい、訪れたい」と思うファンが、日本中、世界中に増えたらこれほど素敵なことはないと思う。

株式会社地域科学研究所 今枝紘樹



CkMD "fcl>:if::7JJ iO):Jo:Jxà
 dk:L::fjfi:llli r r }- r °o :::::Jo
 Op :::::z.IvittHr itg:fo1 . mffilMc'r.
 fF' ::t: 11t:&O)Jo ffa?>il:LF(sO)JJfu
 7:Jf.

ZU:c:0)7 Ir.,(7t 1d::;O)'tu,tt
 O)U:-f:is



セレモニー会場の受付は地元の方で。会場は強烈なブルーの光でライトアップされた大きな納屋。随所に"美しい村らしい"空間デザインが施されている



(写真中段) 総会2日目の狩猟小屋でのバーベキューディナー。ワロンの各地域住民の方々と共有する食事は本総会での醍醐味であった



色調の違うレンガ建築物に囲まれたクレルモン・シュル・ペルヴィンヌの中心広場。レンガ作りのブラッセリーでビールランチ

ランブールの広場に特設されたステージでは躍動的なコンテンポラリーダンスが披露された。路地裏歩きの際は広場に面したブラッセリー「セントジョージ」でビール&チョコレート



最後の晩餐は仮設テントの中での音楽とダンスのスペクタクルショーで閉幕

Crupet



LES PLUS BEAUX
VILLAGES
DE WALLONIE

